

親子関係を円滑にするコミュニケーションツール

A communication tool for children and their parents, using colors

土方 麻衣

指導教員 李 盛姫

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 ビジュアルコミュニケーション研究室

キーワード：色・親子・視覚デザイン・コミュニケーションツール

研究目的

現代の親と子が抱える社会問題として、子供側には少子化・都市化の影響で人や自然と直接触れ合う経験が少なくなっている。保護者側には家族や地域社会の在り方が変化する中で不安や悩みを抱え、ストレスが増えている保護者が多い。保護者の養育力の低下、児童虐待が増えていることが問題となっている。そこで、本研究では色の持つ力で保護者のストレスを軽減させ、同時に子供が人と関わるができるデザインを考える。

事前調査

1. ターゲットとなる子供の年代

現代の子供は自尊感情が低いということが文部科学省の現代の子どもの成長と徳育をめぐる今日的課題の発表でわかった。また、自尊感情を高めるには子供の時期に親と一緒に料理や読書をするなど親子で何かを一緒に取り組むことが大切であることも調査で明らかになった。そのため、親子との愛着関係が形成され、興味や関心の対象が広がる3歳から6歳までが適していると考えた。

2. 子供の色彩知覚の発達

子供の色彩知覚が年代によってどのように発達するのかを調査した。また、子供の年代に合わせた色彩教育についても調べた。幼児期における色彩知覚の発達についての兵庫女子短期大学竹井らの論文から、3歳前半で色の明度の違いを、4歳前半で色相の違いを約80%の高正答率で示すという結果が得られている。このことより、子供は誕生後

かなり早い時期から色のもつ明るさ・暗さを識別する力を培い、色相の違いの広がりを獲得していることがわかった。芸術教育研究会による乳幼児の教育についての発表では、乳幼児は2～3歳で色を区別し「同じ」「ちがう」を理解するので、この時期に色がものを認識するための特徴であるということを理解させる必要がある。続く3～4歳児では、赤・橙・黄・緑・青・紫・黒・白の8色すべての色を見分けさせ、その色名を覚えさせることを課題としている。そして、5～6歳では「色のニュアンスが言えるようにする」或いは、「混色で身近にある色づくりをする」ことが課題である。これらのことから、色彩教育において乳幼児期の子供は、年齢によってできる事とできない事が大きく変わることがわかった。よって、子供の色彩知覚の発達や年齢に合わせてコミュニケーションツールを提案すべきだと考えた。

3. 日本色育(いろいろ)推進會

日本色育推進會が実際に使用しているコミュニケーションツールがある。日本色育推進會は、色がもつ様々な効果を生活に取り入れることで子供・大人の大切な力となる「集中力」「想像力」「コミュニケーション力」を育てる色育活動の発信を続ける団体である。例えば、絵本のモチーフを30秒見つめることで集中力を高める絵本(図1)、8色のカラーカードを使いカラーカードの色から連想することで想像力を育てるカラーカード(図2)、ぬりえの中のモチーフを2人で塗ることで

コミュニケーションが生まれるぬりえ絵日記（図3）をコミュニケーションツールとして使用している。これらの3つのコミュニケーションツールを参考にする。



図1) 絵本図



図2) カラーカード



図3) 絵本日記

コンセプトおよびアイデア展開

コンセプト「親子で一緒に色を楽しむ」

事前調査では、親子で何かを一緒に取り組むことが大切であることがわかった。そのため、親子で一緒に取り組めるものにする。また、日本色育推進会のコミュニケーションツールを実際に使った親子の保護者の意見で、色によるコミュニケーションで「癒された」「見ていて楽しい」などの意見が多く取り上げられ、色によってストレス軽減していることがみられた。従って、色を活用したツールにする。これらのことから、コミュニケーションツールとして親子が一緒に色を楽しむことができるものを提案する。

現段階での提案

絵本とカラーセロファンフィルムを使ったカラーカードの2つを用いたコミュニケーションツールを提案する。絵本の物語を楽しみながら物語に沿ってカラーカードを使い、カラーセロファンフィルムによる色の混色をみて楽しむ構成となっている。また、カラーカードの形を具体的で身近な食べものや動物の形にし、親しみやすく、馴染みやすい

ものにした。

今後の展開

実際に親子に使用してもらい問題点や改善点を分析し、親子にとって使いやすいように改善する。また、日本色育推進会にも意見を仰ぐ。さらに、学校の文化祭で展示し、そこで得た来場者アンケートの結果から改善と修正を行い、最終提案に落とし込みたい。

参考文献

- ・現代の子どもの成長と徳育をめぐる今日的課題／文部科学省／2009
- ・自尊心や自己肯定感に関する研究／東京都教職員研修センター／2015
- ・幼児期における色彩知覚の発達について／兵庫女子短期大学竹井 史、園田学園女子短期大学・神戸大学大学院教育学研究科 山野 てるひ／1990
- ・日本色育推進会プロフィール／日本色育推進会／<https://www.iroiku.com/>／2017,10,19